

●発行日：2017年5月20日（土）

〒661-0035 兵庫県尼崎市武庫之荘3-19-3 TEL 06-4962-5876 FAX 06-4962-5877 e-mail info@gakurin.co.jp

||||| 発行:教材出版 学林舎



教育の行き先

学習指導要領改訂について

2017 年 3 月、文部科学省より新学習指導要領が公示されました。小学校は2020年、中学校は2021年から、この学習指導要領にもとづいた教育が始まります。

学習指導要領は、時代の変化に応じて、およそ 10 年ごとに改訂されてきました。今回の改訂は、1947 年に公示された学習指導要領から 9 度目の改訂になります。

今回の改訂では、子どもたちの資質や能力をより確実に育てることを方針に掲げています。少子高齢化や情報化が進み、激しく変化していく社会において、子どもたちが社会の課題に対して主体的に取り組めるように、「何ができるようになるか」が明確に示されました。その上、現行の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持しつつ、知識への理解の質をさらに高めることも方針に掲げています。

実際の学校現場において、大きく変化するポイントは次の3つです。

（１）小学校での「外国語」の導入

「外国語活動」の授業は、小学校 5・6 年生に対して行われていましたが、今回の改訂によって小学校 3・4 年生から行われることになります。さらに、小学校 5・6 年生では、「外国語」という教科を設け、「外国語活動」で行われる「聞く」「話す」という学習に加え、「読む」「書く」もあつかう、より高度な学習が行われます。「外国語活動」では「英語に慣れ親しむこと」を目標にしていますが、「外国語」では「コミュニケーション能力の基礎を養うこと」を目標にしています。グローバル化が進む社会の中で、子どもたちに確実に英語力を身につけさせようという取り組みです。

(2) アクティブ・ラーニングの導入

アクティブ・ラーニングとは、子どもたちが能動的・主体的に取り組む学習方法のことをいいます。この学習方法は、教師が一方的に授業を行うのではなく、子どもたちが主体的にあらゆる課題に取り組んでいくものです。具体的には、発見学習や問題解決学習、体験学習、教室内でのグループ・ディスカッションなどがあり、この活動を通して、課題を解決していく力を育てます。今回の改訂では、この学習方法にもとづいた授業改善がおこなわれることになります。

(3) プログラミング教育の導入

現代の社会ではコンピュータの役割が一層高まり、社会の在り方が大きく変化しつつあります。予測ができない社会において、子どもたちが未来を生き抜く力を身につけるために、情報活用能力の育成が掲げられました。今回の改訂では、中学校・高校に加え、小学校でもプログラミング教育が必修化されます。これは、文字入力などのパソコンの扱い方を身に付けるだけでなく、コンピュータが動くしくみを理解することで、小学校の段階から論理的な思考力や創造性をはぐくむことを目標としています。これに関連し、各教科において、ICT（情報通信技術）を活用した学習活動がより重要となってきます。

上記にあげた3つのポイント以外にも、社会の動きに応じて大きく変更される教科があります。例えば体育では、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を受けて、国際的なスポーツ大会の役割やオリンピックで行われるスポーツの意義などを学習する項目が追加されました。また、社会では、選挙権が18歳以上に引き下げられたことから、主権者教育を充実させる内容が盛り込まれました。

今回公示された学習指導要領をもとに、各教科書会社が検定用の教科書を作成します。2020 年から開始される新学習指導要領の実施に向けて、引き続き、新学習指導要領の分析を続けていく必要があります。

(文／学林舎編集部)

教育の行き先

国際バカロレアの行方

□国際バカロレアとは

国際バカロレア (IB: International Baccalaureate) とは、スイスのジュネーブに本部を置く教育団体、国際バカロレア機構が提供する教育プログラムです。

このプログラムは、世界で生き抜く力を身につけ、国際的な視野を持った人材を育成するとともに、国際的な大学入学資格 (国際バカロレア資格) を与えることで、大学進学への門戸を広げることを目的としています。

□国際バカロレアの教育プログラム

国際バカロレアには、生徒の年齢や進路に合わせた4つのプログラムがあります。

1. プライマリー・イヤーズ・プログラム (PYP)

3歳～12歳を対象とした、初等教育プログラム。

2. ミドル・イヤーズ・プログラム (MYP)

11歳～16歳を対象とした、中等教育プログラム。

3. ディプロマ・プログラム (DP)

16歳～19歳を対象とした、高等教育プログラム。

所定のカリキュラムを2年間履修し、試験に合格すると、国際的に認められる大学入学資格 (国際バカロレア資格) を取得できる。

4. キャリア関連プログラム (CP)

16歳～19歳を対象とした、キャリア教育プログラム。

どのプログラムにおいても、知識詰め込み型の授業ではなく、**討論や探求型学習のアクティブ・ラーニングを通して、自発的な学習が求められます。**例えば、ディプロマ・プログラム (DP) においては、履修科目に関連した分野についての研究結果の論文やグループ・ディスカッション、教科の枠を超えた芸術活動や身体運動、奉仕活動などが必修科目として組み込まれています。

□日本における国際バカロレア

ディプロマ・プログラム (DP)

文部科学省は、2018年までに国際バカロレア認定の高校を200校まで増やすことを目標に掲げています (2017年4月1日現在、日本における国際バカロレア認定校は20校)。

日本の学校が国際バカロレアを導入するには、「外国語での授業」という大きな壁がありました。当初、授業は英語・フランス語・スペイン語のみでの実施が認められていたため、インターナショナル校の生徒や帰国子女のための教育制度、という見方が大きかったのです。しかし**現在では、経済、歴史、生物、化学、物理、数学などで日本語の使用が認められており、授業を実施しやすくなったことから、今後さらに導入が進むと予想されます。**

また、大学入試センター試験が2020年1月の実施をもって廃止されることに先立ち、**国際バカロレアの資格や成績を、入試に活用する大学も増えてきました。**

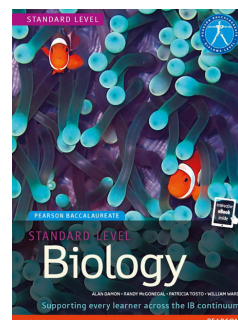
□日本における国際バカロレアの今後の展望

現在は大学入試に直結するディプロマ・プログラム (DP) が特に注目を集めていますが、グローバル人材育成を目指す今後、プライマリー・イヤーズ・プログラム (PYP) やミドル・イヤーズ・プログラム (MYP) にも、ますます注目が集まることになるでしょう。

(文／学林舎編集部)

○国際バカロレア資格対応教科書

学林舎では、文部科学省が推進する**国際バカロレア資格 (International Baccalaureate)** を習得するための教科書を取り扱っております。





学習教育の行き先 算数どこでつまずく 「図形」

先月に引き続き、算数でつまずきやすいといわれている単元の内容を分析していきます。第4回は「図形」です。

「図形」は、第1学年から学習が始まり、6年間を通して図形を構成する要素、面積や体積の求め方を学習していきます。この中で、**つまずきやすいポイントの1つとしてよく挙げられるのが、「図形を構成する要素」**についての理解です。

図形を構成する要素について理解するのに必要なのは、図形を分解して考えたり、視点を変えてとらえたりする「**空間認識力**」です。図形でつまずく原因として、ある図形をいくつかの図形の組み合わせとしてとらえることができなかつたり、平面上にかかれた立体を具体的にイメージできなかつたりする、つまり「**空間認識力**」が足りないことが原因だと考えられます。

ここで、「**図形を構成する要素**」について、各学年でどのような内容を学習するのかを具体的に上げます。

第1学年では、色板や棒など、具体物を用いて様々な形を作るで、ある形を作るには色板や棒をどのように組み合わせればよいか、ということを考える力を養います。

第2学年では、箱の形について学習します。実際に箱の形を作る活動を通じて、箱が長方形や正方形の面で構成されていることや、同じ長さの辺が複数あることなどを学びます。

第3学年では、円と球について学習します。球を半分に切ったときの切り口の円に着目するなど、立体を視点を変えてとらえる力が必要になります。

第4学年では、展開図や見取図について学習します。直方体や立方体を構成する面や辺などの要素を理解した上で、平面上でどのように表現するかを考える力を養います。

第5学年では、角柱や円柱といった立体について学習します。それぞれの立体について面の形や辺の数などを理解し、展開図や見取図をかくことも学習します。

第6学年では、対称な図形や拡大図、縮図について学習します。それぞれの図形の辺や角度に着目し、図形の対称性や図形間の関係をとらえる力が必要になります。

上記の内容の学習においては、**自分でしっかりとイメージがもてるようになるまで、実際に図形をかいたり、立体を作ってみたりすることが重要**です。

また、上記に挙げた学習項目以外にも、第2学年で学習する正方形、長方形といった図形の性質を理解する場面で、辺の長さや角の大きさなど、その図形を構成する要素に着目できるかが重要になります。これは、第3学年で学習する三角形の弁別、第4学年で学習する四角形の弁別、第5学年で学習する正多角形の弁別でも同様です。さらに、第4学年以降で学習する図形の面積や立体の体積を求める場面でも、一見複雑な形に見える図形を複数の図形の組み合わせとして考えて面積を求めたり、立体の向きを変えて体積を求めたりすることが必要になります。

図形の性質の学習、面積や体積を求める学習においても、**定義や公式を知識として理解するだけでなく、図形の辺の長さや角の大きさ、垂直に交わっている辺や立体の面の形などの要素を、自分で見出せるよう指導していくことが重要**です。

今回は、「図形」について分析しました。「図形のどこに着目すればいいかわからない」「イメージをもつことができない」といった理由でつまずくことがないように、しっかりと指導をしていくことが大切です。

(文／学林舎編集部)

クロスロード crossroad

第 69 回 | 文 / 吉田 良治

● 大学の100分授業から見えること

日本の大学の授業は1コマ90分、半期15回で2単位というのが一般的です。近年1回の授業を10分延長して、100分授業を導入する大学が増えています。主な要因として祝日が増えていることで暦通りに運営すれば、文科省が定める授業日数を確保できないことが挙げられています。特に3連休を増やすため、月曜日に祝日を設定するハッピーマンデーにより、暦通りで授業をすると、月曜日の授業回数が極端に少なくなる為、祝日の月曜日に授業を実施するケースも少なくありません。職場の働き方改革が進み、残業を減らす取り組みや、プレミアムフライデー、そして夕活といった国を挙げて労働時間の短縮を進める中、教育の現場では祝日に授業を実施しなければいけない、という現象が起こっていました。

そこで明治大学などでは通常1コマ90分授業のところを10分延長し、100分授業にすることで授業回数を15回から14回に減らし、休日授業を無くす取り組みが始まっています。これにより月曜日など祝日の多い曜日の休日授業を無くすだけでなく、夏休みなどの長期休暇期間を延ばすことで、短期留学の促進や企業でのインターンシップの機会を増やすことにもつながっていきます。

ただ、90分の授業でも学生が授業に集中できず、居眠りをすることも少なくありません。さらに10分長くなると、学生の集中力が持つのか不安視されています。実際、90分の授業が集中できず居眠りする学生が多い、と悩む大学では、むしろ1コマ60分に短縮した方がいいのでは、という声も聞かれます。その理由は高校まで最大でも50分授業というところが多

いので、その約倍の90分授業に適応できない学生への配慮、ともいえます。

しかし、それでは大学を卒業し社会人になった時、職場での労働環境に適応できません。以前なら勤務時間内でもティータイムと称し、ちょっとした休憩時間を取ることが容認された職場もあったでしょうが、近年は就業規則の厳守・職場の規律が徹底され、昼食時間を含め休憩時間が厳格化されています。午前9時始業なら午後12時までの3時間は、休憩というものを設ける企業はないと心得ておくべきでしょう。昼食に1時間使えば、午後13時から午後17時の定時までの4時間は、休憩をとれないということになります。

大学の授業に集中できずついていけない、というリズムが定着してしまえば、社会人になってすぐ職場環境に適応することはまず無理でしょう。また、授業に遅刻したり、朝一番の授業を敬遠し、2時間目以降の授業を受講する傾向もあります。これらも実社会に進んだ際、学生時代の生活習慣のリズムは、すぐに適応することは難しく、社会人となった後生活習慣の改善に苦労することになります。

アメリカの大学は朝一番の授業は8時台に始まるのが一般的です。授業中の居眠り、そして遅刻に対し厳格な対応もとられることがあります。単純に大学の授業授業時間を10分の時間延長するということだけでなく、学生が卒業後にどう生かすのか、そこをしっかりと理解することが求められます。(つづく)

吉田良治さんプロフィール

1962年生まれ。1998年にワシントン大学へアメリカンフットボールコーチ留学。2000年リーグ制覇、2001年ローズボウルに出場し、ローズボウル制覇に貢献。国家レベルのリーダーシップ教育に貢献した、ランブライト元ワシントン大学ヘッドコーチよりリーダーシップ教育を学ぶ。

全米の大学で人格形成プログラム普及に貢献した、ライス元ジョージア工科大学体育局長よりライフスキル教育を学ぶ。

吉田良治さんBlog

<http://ameblo.jp/outside-the-box/>